

平成16年度

中城湾港泡瀬地区環境保全・創造検討委員会

第2回 比屋根湿地・泡瀬地区海岸整備専門部会資料

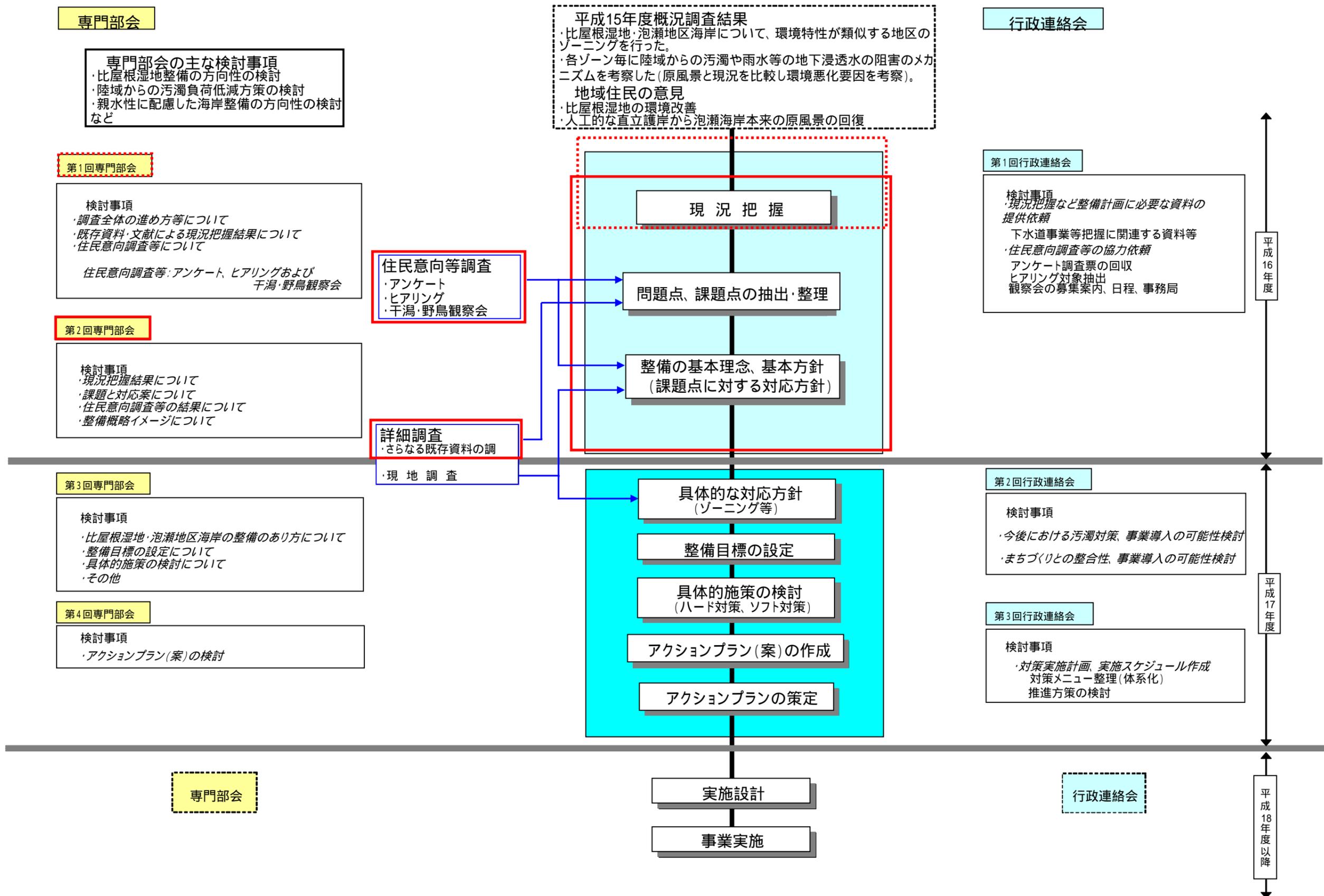
泡瀬地区の現況把握について

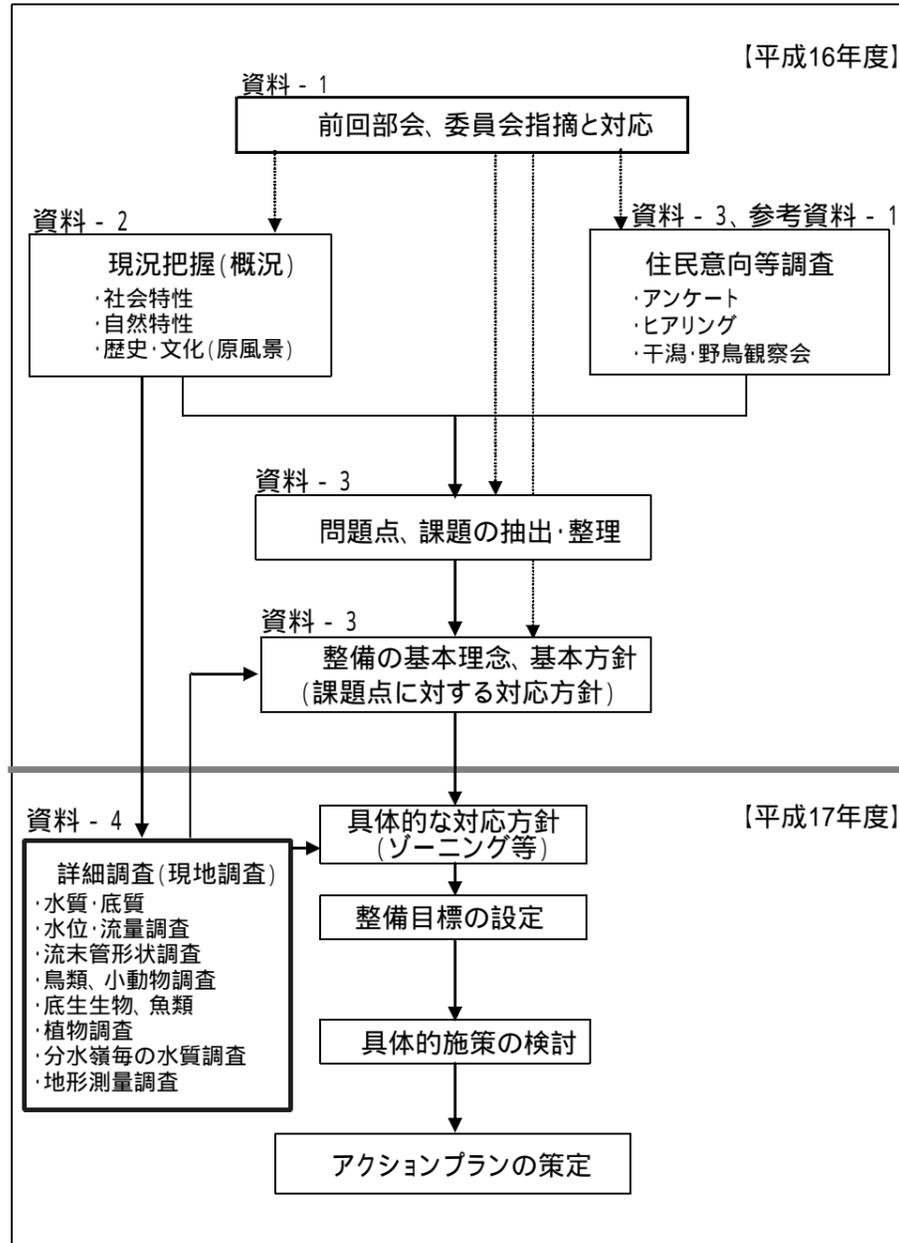
平成17年3月7日

内閣府沖縄総合事務局開発建設部
沖縄県土木建築部
沖縄市東部海浜開発局
(財)港湾空間高度化環境研究センター

比屋根湿地・泡瀬地区海岸整備専門部会における検討フローと第2回専門部会の検討内容

本調査は、以下に示す「比屋根湿地・泡瀬地区海岸整備専門部会」の検討フローに従い進捗させており、本資料は第2回専門部会での検討項目となる の部分を提示している。





1 . 現況把握 (概況)	1
1.1 社会特性の整理	1
(1)人口	1
(2)産業	1
(3)土地利用	1
(4)海岸域利用	1
(5)地域指定状況	1
(6)下水道整備・合併浄化槽の設置状況	1
(7)その他環境問題等	1
1.2 自然特性の整理	6
(1)比屋根湿地	6
(2)泡瀬地区海岸	6
1.3 泡瀬地域の原風景及び現況との比較 (現況評価)	10
(1)泡瀬地域の原風景	10
(2)原風景に類似する県総合運動公園前の特徴	10
(3)比屋根湿地及び周辺域の変遷	11
2 . 関連する事業・計画等の概要	13

1. 現況把握（概況）

第1回専門部会において提示した、比屋根湿地及び泡瀬地区海岸における現況について、委員からの意見を踏まえた追加調査結果（泡瀬地区における分水嶺の把握、比屋根湿地及び周辺域の変遷等）から、自然特性、社会特性、歴史・文化（原風景）に区分し再整理した。

1.1社会特性の整理

項目	特性	備考
(1)人口	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄市の人口は、年々増加し約12万人となるが伸び率は3.8%で鈍化傾向。 ・沖縄市の人口増が東部地区に集中。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会特性図 p 2 を参照
(2)産業	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄市の産業別就業人口の内、第3次産業が最も多く8割近くを占める。 	
(3)土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・泡瀬地区における土地利用形態は住居及び商業地区がほとんどである。 ・泡瀬干潟の南側海岸域には沖縄県総合運動公園がある。 ・泡瀬地区の東側住宅地区には泡瀬通信施設が隣接している。 	
(4)海岸域利用	<ul style="list-style-type: none"> ・比屋根湿地及び泡瀬地区海岸では野鳥や干潟等の観察が行われるなど、自然観察や環境学習の場として利用されている。 ・年を通して潮干狩りの光景が見られ、また地域の伝統行事として浜下り（旧3月3日）が行われている。 	
(5)地域指定状況	<p><都市計画区域></p> <ul style="list-style-type: none"> ・泡瀬地区のほとんどが住居専用地域とされているが、泡瀬漁港及び沖縄マリーナは準工業地域、泡瀬通信施設は軍用地に指定されている。 ・地区内の都市計画道路は概ね整備が完了している他、泡瀬土地区画整理事業も既に事業は完了している。 <p><保安林・休猟区></p> <ul style="list-style-type: none"> ・泡瀬通信施設の一部が既設保安林(その他災害防備)に指定されている。 ・泡瀬地区の泡瀬通信施設以北は、休猟区に指定されている。その他、鳥獣保護区、特別保護区、自然公園等の指定はない。 <p><漁港区域/漁業権></p> <ul style="list-style-type: none"> ・泡瀬地区周辺の共同漁業では、ヒトエグサ漁業、モズク漁業、ウニ漁業、イセエビ漁業、小型定置網漁業等が行われている。 泡瀬地区周辺の特定区画漁業では、シャコガイ小割式の特区第240号、シャコガイ地蒔き式の特区第241号、モズクひび建て式の特区第239号が設定されている。 	

項目	特性	備考
(6)下水道整備・合併浄化槽の設置状況	<p><下水道整備状況、接続状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・下水道接続率が低い為に、生活排水が雨水排水路に流入し、水質悪化を招いている。 ・比屋根地区は、平成19年度までに下水道を完備予定。 ・泡瀬第一雨水幹線の出口は、BOD：40.8mg/Lを示し、下水道整備普及率は100%に対して、30.6%の世帯が下水道へ接続していない状況である。 ・比屋根第一及び第二雨水幹線の出口は、BOD：10.0～14.0mg/Lを示し、下水道整備普及率は80.8%で、そのうち47.5%が下水道へ接続していない。 <p>分水嶺毎の下水道未接続率 ()：下水道整備率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泡瀬第1雨水幹線 <u>38.3%</u> (100%) ・泡瀬3丁目、4丁目側溝 <u>14.7%</u> (100%) ・比屋根第1雨水幹線 <u>85.5%</u> (54.4%) ・比屋根第2雨水幹線 <u>36.8%</u> (83.2%) <p><合併浄化槽の設置状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・合併浄化槽の設置状況は、流域全体で49基となっており、下水道未接続世帯数（1730世帯）の2.8%であることから、下水道未接続世帯の生活排水のほとんどが雨水排水路に流出していることが確認できる。 ・泡瀬第1雨水幹線 <u>6基</u> ・泡瀬3丁目、4丁目側溝 <u>1基</u> ・比屋根第1雨水幹線 <u>17基</u> ・比屋根第2雨水幹線 <u>25基</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・流域内下水道接続状況図 p 3 参照 ・分水嶺区分図 p 4 参照
(7)その他環境問題等	<p><比屋根湿地内、泡瀬地区海岸></p> <ul style="list-style-type: none"> ・比屋根湿地内や泡瀬海岸へのゴミの不法投棄や悪臭が発生しており、比屋根湿地や泡瀬海岸の環境に対する無関心を招いている。 ・下水道未接続による雨水排水路への生活排水の流入による水質悪化・悪臭が生じている。 ・高潮対策として整備される直立護岸により海浜とのアクセスがしにくく、陸域と海域の連続性が阻害されている。 <p><比屋根湿地></p> <ul style="list-style-type: none"> ・比屋根湿地内への野犬侵入が野鳥等生物の生息を脅かしている。 ・比屋根湿地内のマングローブの繁茂により景観悪化やアクセスのしにくさを招いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題等の現況図 p 5 参照

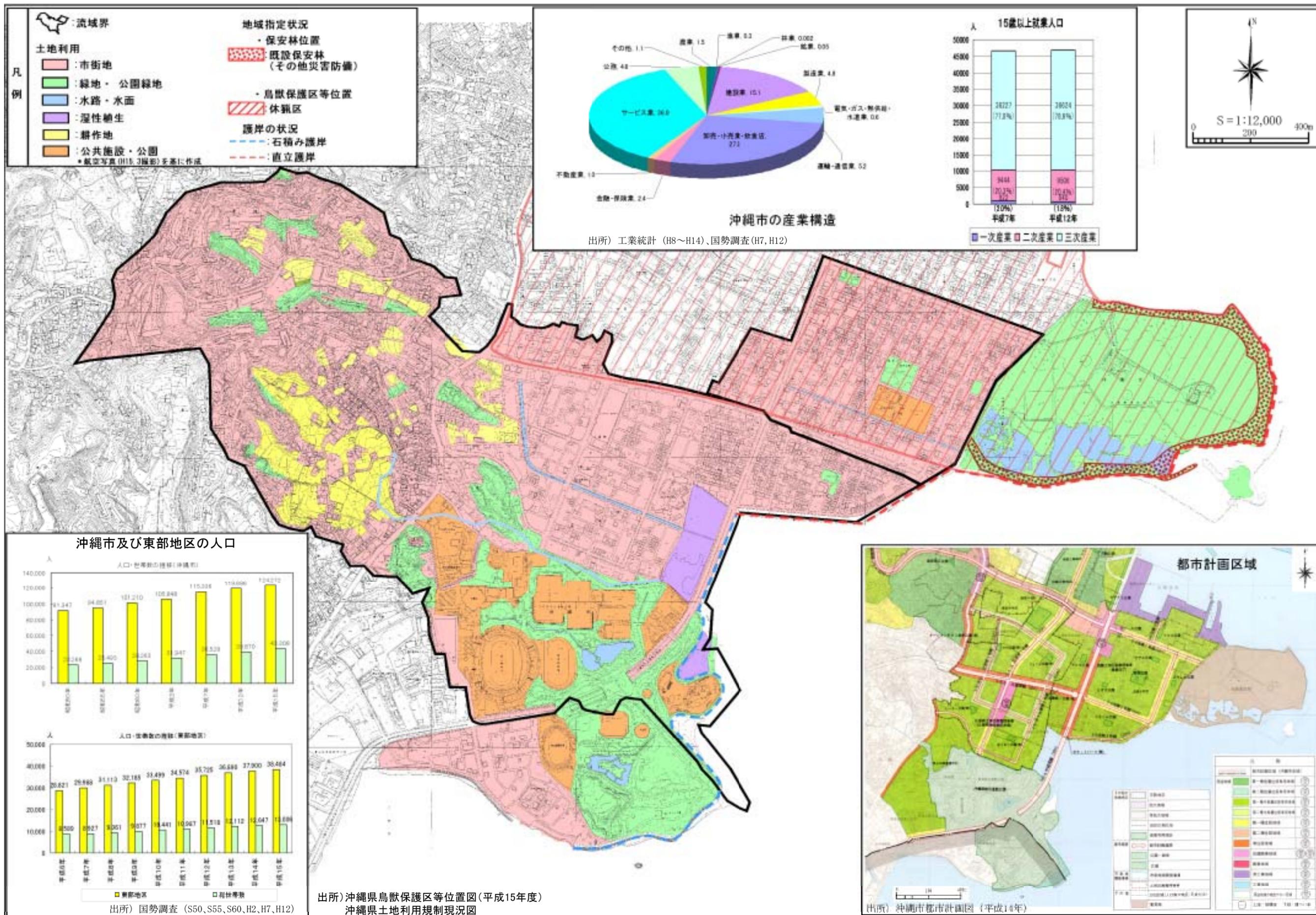


図1 社会特性の整理

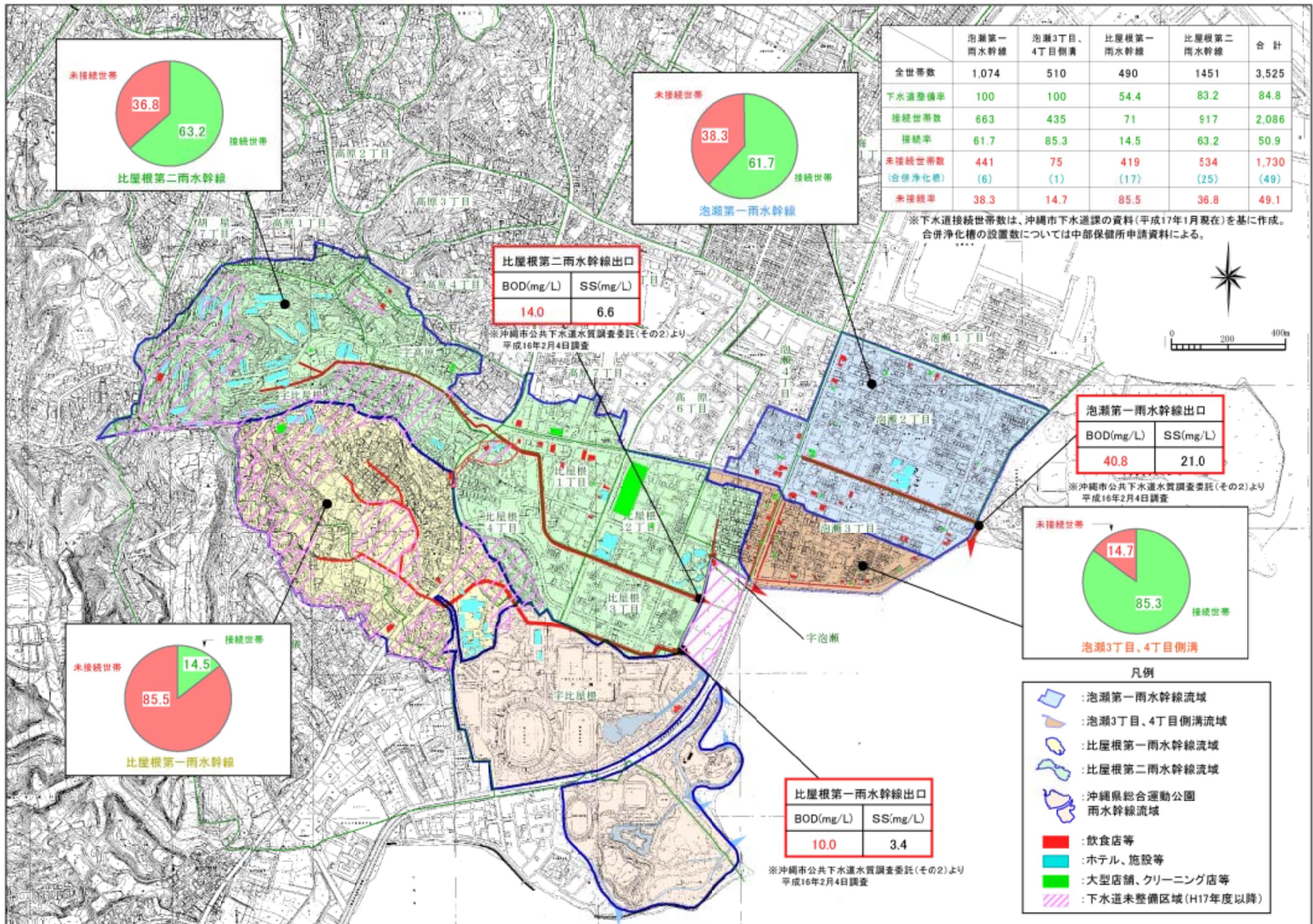


図2 泡瀬地区流域内の下水道接続状況(分水嶺毎)

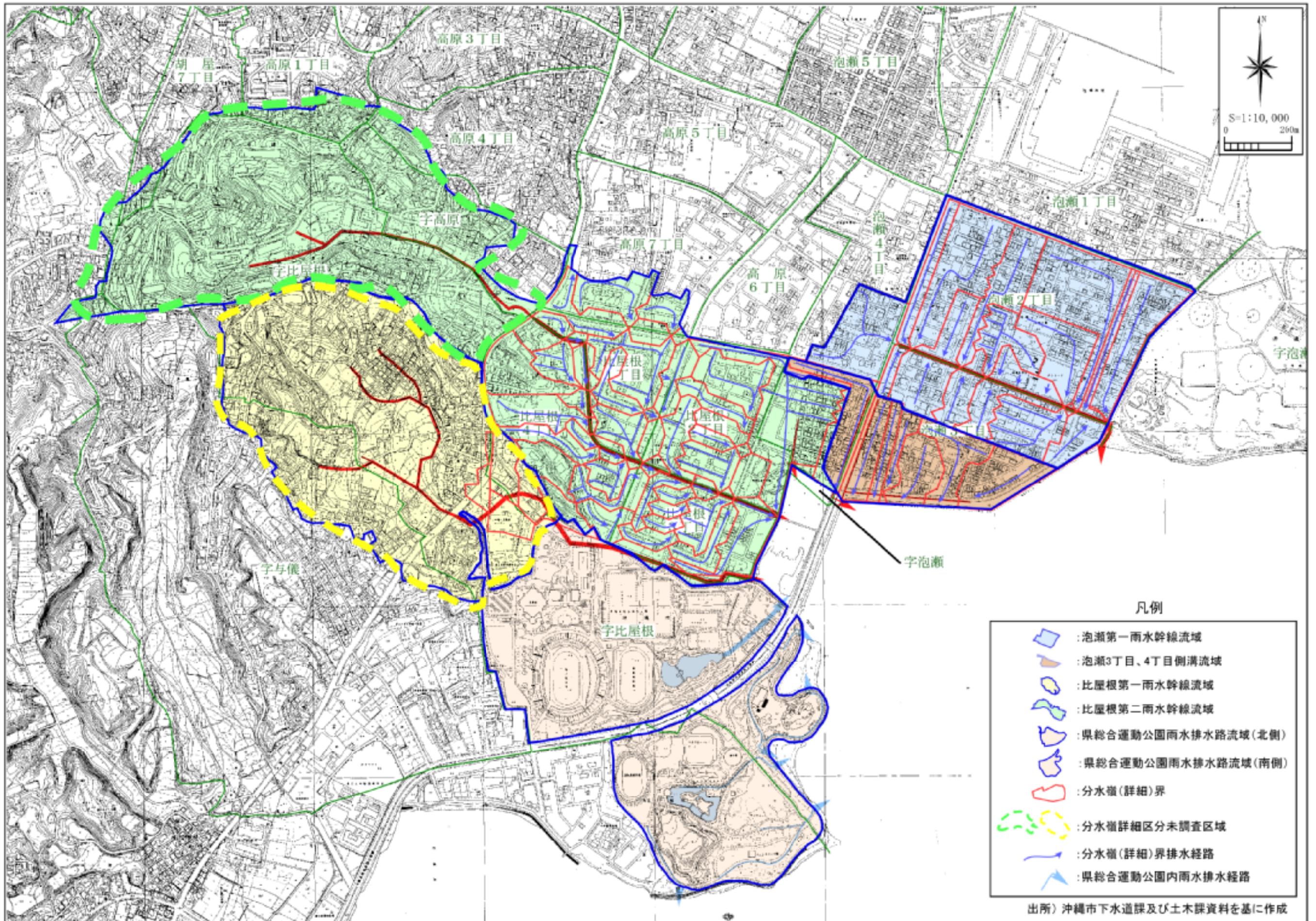


図3 泡瀬地区流域内の分水嶺詳細区分図(雨水排水路流域図)